

生涯学習やまがた



山形県生涯学習センター分館 洗心庵

Contents もくじ

• 特集「超高齢社会と生涯学習」	2	• 生涯学習実践者インタビュー	6
• 事業報告	4	• 地域の取り組みを紹介します	7

本県の高齢化率は30%で、全国に比べて高齢化が10年～15年早く進行している高齢県となっています。(平成26年10月現在)全高齢者のうち介護を必要とする高齢者(要支援を含む)は約2割、元気な高齢者は約8割で全国平均とほぼ同様となっています。(平成26年12月現在)

高齢者が元気に活躍することは、地域活性化はもちろん本人の生きがいにもつながるため、経験・知識を取り組むことができる環境づくりを行っていくことも重要な課題となっています。

このような本県の現状を踏まえ、生涯学習の視点から伊藤真木子氏より寄稿していただきました。

1 超高齢社会とは—何が「問題」なのか

はじめに、やや「ツマラナイ」かもしれない話を連ねたいと思います。

65歳以上の人口が総人口に占める割合(高齢化率)が7%を超えた社会を「高齢化社会」、14%を超えた社会を「超高齢社会」、そして20%を超えた社会を「超高齢社会」と呼ぶ今日の通常に従えば、日本は1970年には高齢化社会、1994年に高齢社会、そして2006年には超高齢社会と呼ばれる段階に入りました。2014年の高齢化率は26%で、2060年には約40%に達すること、つまり

特集

超高齢社会と生涯学習

常磐大学コミュニケーション学部 助教 伊藤 真木子

国民の2・5人に1人が65歳以上となることが予測されています。また、2013年の平均寿命は男性80・2歳、女性86・6歳で、今後さらに伸びると予測されている一方、一人の女性が生涯に産む子どもの数を推計した「合計特殊出生率」は1・4で、今後もなお低い水準に留まると予測されています。

高齢化はこうした長寿化と少子化の関数であり、少産少死社会としての高齢社会の実現は、産業社会の恩恵であり平和の所産であって、喜ぶべきともいえます。しかし、あまりに急速な高齢化の進展、激しい寿命の伸長に、従来の65歳を基準とした社会制度や慣習、人々の価値意識が対応できていないことが、「問題」とされてきました。たとえば、個人レベルでは、加齢とともに増すといわれる「3K」(健康・経済・孤独)の不安などが、国レベルでは、労働生産性の低下や社会保障費の増大などが、「問題」とされてきました。

高齢社会をめぐる「一般的な問題」が喧伝されて久しいですが、結局、何が「自分にとっての問題」あるいは

—さて、ここまで話、特に異論を差し挟む余地もなく、「ツマラナイ」と感じる人は少なくないのではないかと思います。高齢社会をめぐる具体的な問題は決して一律ではないかと思います。高齢社会をめぐる問題は少く、人々の学習ニーズもあります。多様化しています。上のよろ一般論を繰り返す段階を過ぎているのが、「超」高齢社会なのかもしれません。たとえば都市部と過疎地といった地域特性をふまえた議論が必要です。社会経済的な観点からの立論、高齢人口の増加による医療費の増大を「問題」とみなし、倫理的な観点からの立論(先端技術や終末医療による医療費の高騰を「問題」とみなす)としてとらえ返してみると必要でしょう。若さや自立的であることに拘りたい人と、老いに向き合おうとする人とでは、「問題」の性格は全く異なるでしょう。

昨今では、高齢者(期)の学習は、自己実現や生きがいと関わるだけではなく、高度情報化や国際化が進む社会への適応や、消費者問題や防犯・防災等「リスク」への対応と関わるものであることが強調されるようにもなっています。国民の2・5人に1人が65歳以上となるような社会を前に、高齢者(期)の学習は、「個人の要望」として以上に「社会の要請」としてその必要性が強調されるようになっています。

「地域にとつての問題」なのか——それ 자체を、それぞれの人が、それぞれの地域で、主体的に考えなければならぬ段階にあるといえるのでしょう。その促進剤となりうる学習機会が、ますます重要な意味をもつてくるのだと思います。

2 高齢者(期)の学習の意義

生涯学習の観点からは、これまでも、依存的な高齢者像を自立的な高齢者像に転換し、社会参加を促進する高齢者(期)の学習の意義がさまざまに指摘されてきました。高齢者(期)の学習機会への参加は、新たな他者との関わりを生み、社会的な活動への広がりを生み、時には就労へもつながること、そうしたなかで生まれる精神的な張り合いが身体的・認知的機能の維持につながり、ひいては医療費の削減、社会保障費の縮小につながりうるといったことまでが、検証されました。



学習成果を活かしボランティアに取り組む高齢者

ば、学んだ成果を生かし、次世代の育成にかかわりたいと考える人は少なきことのことです。「学んだ成果」とは、ある特定の学習機会に参加して修得したことかもしれないし、人生を歩むなかで自ずと身についてきたことかもしれません。が、いずれにしても、後世に伝えたいもの／伝えるべきものをもつ高齢者は少なくないだろうということです。いまならため、高齢者には、「学習者」のみならず「教育者」としての役割を期待して良いのだと思います。俗にいわれることですが、「教えることは、学ぶこと」でもあります。

3 「理想的な高齢社会」のモデル発信に向けて

情報過多だといわれる今日ですが、溢れているのはつい最近の事柄に関する情報であって、過去の情報を得ることは、むしろ困難になつているようです。新しい情報は自ずとどんどん入つてきますが、古い情報

は心がけていてもなかなか得られません。少し前のことすら知らない若い世代に、是非、過去の記憶を伝えて欲しいと思います。物事を相対化する力、長い目で受け止める力、全体的にとらえて考えようとする力は、先行世代との対話を通してこそ、育まれるものではないでしょうか。歳を重ねても教え・学び続ける高齢者（期）の姿に触ることは、きっとそれだけで、若い世代にとつては意味があることでしょう。

高齢者の学習、高齢社会についての学習、高齢者による学習支援：さまざまな観点からの学習機会の企画・運営には、多様な機関・人々の協力が欠かせません。たとえば、長い間地域を基盤として高齢者の健康づくりや高齢者同士の助け合いの活動、地域文化の伝承活動や他世代との交流活動、地場産業や環境美化などへの取組を総合的に展開してきた「老人クラブ」。高齢社会に関わる特定のテーマに絞つて活動するボランティア団体やNPO、あるいは高齢者向けの商品・サービスを開発・展開する企業。少年化に直面し、高齢学生の受け入れについて模索している高等教育機関。そして、「聞きたがりの高齢者」などといった表現で、その相性の良さが指摘されるような、小さな子どもたちが集う保育

所や学校。こうした地域に所在する諸機関の連携を図ることは、広域的な学習支援を担う生涯学習センターの本来の役割だといえます。また、学習機会へのアクセスが困難な状況にある高齢者との接点を多くもつ福祉行政、就労の意思を有する高齢者との接点を多くもつ労働行政など、行政の各分野でとられている複層的なアプローチをつなげる役割も、生涯学習センターが積極的に担つていると思います。

山形県の高齢化率は全国に比べ10

（15年進んでいること、いわば高齢社会の「先進県」です。これまでにも「山形学」や「山形方式（Y-Yボランティア）」と呼ばれるようなユニークな取組によって、全国の関係者の注目を集めてきた、生涯学習振興の「先進県」でもあります。長年の取組によって築かれてきた多くの人や機関のつながりが生き、蓄積された経験が活かされることで、全国に先駆けて山形県から、「理想的な高齢社会」理想的な高齢者（期）のモデルが発信されることを、期待したいと思います。

結局、最後まで、つまらない話を連ねたかもしれません。が、高齢者（期）の学習や高齢社会における学習について考える際の、一つの材料になるのであれば、幸いです。



支え合い活動や居場所づくりを学ぶ高齢者

▶プロフィール

伊藤真木子（いとう まきこ）

2008年10月から、国立教育政策研究所社会教育実践研究センター専門調査員。2012年4月から、常磐大学コミュニティ振興学部助教。

事業報告

7月11日～9月26日

山形学講座 時をつむぐ若者たち～ともに創る山形の未来～

地域の未来を担う「若者」。今年度の「山形学」講座では、県内で活躍している若者がどんな生き方や活動をしているのかを学び、これから山形の未来のために私たちは若者と一緒に何ができるかを考えました。

現地学習2回を含む全6回の講座では、全国から生徒が集まる基督教独立学園高等学校、地域活性化に取り組む南陽市の若者達、バイオ技術で世界へ挑戦する鶴岡市を訪問したり、若者達の居場所づくり活動、農業に関わる若者、伝統文化を継承する若者、

そしてナリワイという働き方をする若者などとのたくさんの出会いがあり、彼らを通してさまざまな価値観に触れることができました。講座の最後では「常識を疑ってみる」「多様性を認め合う」など、これから若者たちと共に未来を作り上げるためのいくつかのヒントを得ることができました。今回の学びを元に、それぞれの立場で若者に寄り添いお互いを認め合い、これから山形、そして地域を共につくりあげていただければと思います。（今年度の講座録は平成28年度に遊学館ブックスとして発刊する予定です）



第4回講座「継承する若者」



南陽宣隊アルカディオン

生きることの素晴らしさ、老人、青年、対等に話し合える場づくりの大切さを学びました。

若者それぞれの違いがあるので、それを認め合うことが大切。

参加者Voice

9月12日
遊学館

作家トークショー

東根市出身で芥川賞作家の阿部和重氏と女優・脚本家中江有里氏による豪華トークショーを「小説家になろう講座」と共催で開催しました。お二人からは小説を書くきっかけとなったエピソードや、読書、映画、テレビについて語っていました。



ただき、多くの方に愉快な時間を過ごしていただきました。

本、映画、テレビからマンガまで、一線で活躍する方々の話を幅広く聞ける貴重な機会でした。

阿部さん、中江さんのかけがえのない人との出会いや作品のことなど、じっくりとお話を聞けて、充実した時間を過ごせました。

参加者
Voice

8月19日新庄市
8月21日南陽市

スキルアップセミナー ファシリテーション編

生涯学習関係職員や公民館職員等を対象としたファシリテーションの研修会を実施しました。午前中はコミュニティデザインとは何かについて講義を受け、午後からは地域の課題解決に関わるグループワークを行い、グループで問題点を共有し、課題解決に向けて意見を出し合いました。受講生の方々には今回の研修を日々の仕事に活かしていくだければと思います。



とても不安を抱えながらのセミナー参加でしたが、グループの皆さんととてもいい交流ができて良かったです。

もっともっとファシリテーションについて勉強してみたいになりました。

参加者
Voice

9月26日

アンサンブルシリーズ in洗心庵

山形交響楽団と財団のコラボでシリーズ化が実現！第2回目となる今回は、山形交響楽団のアンサンブルエルヴァを迎え、楽器やオーケストラのレクチャーを交えたワークショップ型の演奏会を開催しました。日本庭園の落ち着いた環境の中でアイネ・クライネ・ナハトムジークなどのクラシックの名曲を楽しむとともに実際に楽器へ触れ



あうコーナーもあり、限定40席の贅沢な音楽空間を楽しんでいただきました。

次回は平成28年1月24日(日)
13時開演、山響メンバーによる
弦楽四重奏をお届けします。

詳細は財団ホームページでお知らせします。

**参加者
Voice**

庭園を楽しむこともでき、とてもよい時間を過ごせました。素晴らしかったです。

高齢者生きがいづくり・生活支援活動人材育成事業 ふれあいの居場所づくり 担い手養成講座

全5回の実践講座を開催。トライアル（模擬運営）では受講生が作成した計画に沿い実際に居場所を運営し、地域の高齢者に参加して頂きました。この学びを活かし、今後仲間との繋がりや地域での支え合い活動に発展してほしいと思います。



トライアルでのヨガ体操



ふれあい処いぶきでの現地研修

スタッフ、利用者、みんなが楽しめているという居場所を目指したい。

**参加者
Voice**

参加型で体験を積めるのが良かった。同じ志を持った仲間が集まってできたことが大きな収穫になった。

いま、なぜ生涯学習なのか

去る10月30日に遊学館で、生涯学習の基本課題等を学ぶ講演会「いま、なぜ生涯学習なのか～過去・現在・未来～」が開催された。講師は、宇都宮大学地域連携教育研究センターの佐々木英和准教授、文部科学省生涯学習政策局生涯学習調査官の経歴も持つ。

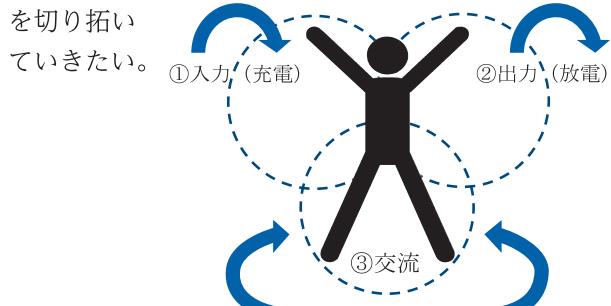
生涯学習社会が謳われて四半世紀、生涯学習とは何か、予算、事業、職員が減らされているのは何故か。生涯学習や社会教育に携わる者ならば、一度は考え悩んだことがあるだろう。

佐々木氏は講演の中で、生涯学習の重要性と可能性を、さまざまな根拠やアイディアで提起し、生涯学習・社会教育関係者そして関心の高い一般参加者にエールを送った。

生涯学習は、あらゆる教育・学習活動を含めし、“いつでも、どこでも、だれでも、なんでも”という多様性そのものであること。高齢化や情報化、国際化といった社会の加速度的な変化の中で、絶えず学び直し学び合うことが必要である

こと。そのために聞く・聴く・訊く力、引き出す力を養う必要があること。生涯学習は、「入力（充電）」「出力（放電）」「交流」の好循環が重要であること。「学習なくして活躍なし」であり、生涯学習は生涯活躍の人づくりに繋がること。計画的・戦略的に生涯学習を進めることで、発展的な地域づくりの切り札となりうること…等々。

全国の中でも少子高齢先進地である山形県、切り札となりうる生涯学習の力で、持続可能かつ発展的な未来を切り拓いていきたい。



生涯学習における3つの学習形態イメージ図

このまちに
注目!

地域の取り組みを紹介します

村山市 GOGOーむらやま夢大学

「教養としての徳内學」講座

■ 内容 ■

江戸後期、長崎出島のオランダ商館医で日本研究家のシーウルトが「十八世紀で最も卓越した日本の探検家」と評したのが、村山市出身の最上徳内です。徳内は北方探検、測量、計量法、アイヌとの交流など多くの業績を残していますが、晩年、八王子に住み、蝋燭づくりなど殖産振興に貢献し、「八王子の恩人」とまでいわれています。地元出身の偉人ですが、まだ知らないことが多く、学び続けなければ!そして、徳内について語れる人を少しでも増やそう!と始まったのがこの講座です。毎年五回程度の開催で今年三年目を迎えます。

■ これが大変 ■

「徳内まつり」は知っているけど、肝心の徳内の業績について知らない人も多いと思います。いろんな分野の先生のお話しが聞けるのが魅力です。

参加者 Voice



舟形町 古代ロマンの里ふながたへ里帰り

『国宝「縄文の女神」里帰り展』

■ 内容 ■

舟形町では、8月4日の「縄文の女神の日」にあわせて、8月1日2日に国宝土偶「縄文の女神」里帰り展が開催されました。これは、県立博物館に常設展示されている国宝を、生まれ故郷である舟形町に里帰りさせることで、その素晴らしさを再認識し町民の意識の高揚を図ることを目的としています。

2日目に「土偶に込めた縄文人の心とは」と題して開催されたシンポジウムの参加者からは、土偶の造形などについての意見や、まちづくりへ地域住民がどのように参画するか、北海道や内陸における土偶文化の関係性についてなど、活発に質問が出されました。

■ これが大変 ■

内を専門に研究している方は極めて少なく、講師としてお迎えできる方を探すのがちょっとたいへん。

■ これがうまくいった ■

関心のある市民が多くいることがわかったので、今後は、講師を招き話を聞く徳内講座から自ら学び研究する徳内研究会に発展させたい。

本物の女神に会えて本当に良かったです。舟形に住んでいた先祖の素晴らしい技術とセンスに感動し、この地域の誇りに感じました。

参加者 Voice



長井市 中央地区公民館お茶の間交信事業

『パパのためのイクメン講座』

■ 内容 ■

当講座は、平成22年度から始まり6年目の事業となりました。当時は、まだ「イクメン」という言葉が世の中に出始めたばかりの頃でしたが、「父親が子育てを楽しみ、仲間づくりをしながら自分自身も成長しよう」とスタートしました。2年目からは、企画委員を子育て中のパパ世代にお願いし、プログラム作りから運営までを行います。講座内容は、家族参加の交流事業や父子遠足、パパ同士の学習会や情報交換など、家族を巻き込みながら楽しい育儿のあり方を考えていきます。

■ これが大変 ■

土日開催の4回継続講座ですが、土日休暇ではない受講者もいるため、全員が継続参加できるまでに至っていない」と。

■ これがうまくいった ■

パパ目線のプログラムのため、毎年、工夫した活動内容になっています。

それぞれの家庭でそれぞれの悩みがあるんだな、自分だけが苦労しているんじゃないんだと勇気をもらいました。色々な悩みを共有し、男親同士の意見交換ができ有意義でした。

参加者 Voice



参加者 Voice



参加者 Voice



参加者 Voice



三島が歩いた道

この11月、当財団が管理運営する文翔館、遊学館・洗心庵に山形県立博物館分館である教育資料館を加えた4施設が連携して情報を発信し、学びの魅力を掘り起こすことを目的として「三島が歩いた道」をテーマに合同企画事業を実施しています。



文翔館



遊学館



洗心庵



教育資料館

後期につくられたことなどをお話ししていました。また、文翔館が行つた「郷土の人々」パネル展を11月10日から21日まで、遊学館、洗心庵、教育資料館で分割して展示するという試みも行いました。

旧県庁から三島通りに施設が連なるこのエリアは、明治の初め、初代県令三島通庸が山形の新しい街づくりを目指して整備したもので、平成27年3月に発行された「おもてなし山形県観光計画」では、「歴史文化ゾーン」と名付けられています。

遊学館では、11月14日に講演会を開催。青木章二教育資料館学芸員に錦絵「山形県新築之図」（明治14年）の解説を、阿子島功山形大学名誉教授には「三島通りの原風景」と題して、今みている原風景が明治初期から明治

後期につくられたことなどをお話ししていました。また、文翔館が行つた「郷土の人々」パネル展を11月10日から21日まで、遊学館、洗心庵、教育資料館で分割して展示するという試みも行いました。

さらに、11月1日から29日までの日程で4施設を巡るスタンプラリーを実施しています。スタンプを4つ集めると各施設が工夫して準備したプレゼントを差し上げる特典もあります。最終日は29日ですが、プレゼントの数量には限りがあり、無くなり次第終了となりますのでご了承ください。

4施設の共同事業はこれが初めてのことでした。皆様のご意見をお聞きしながら、「歴史文化ゾーン」の名に相応しい魅力を再構築していくとともに、各施設への理解を深めていただきたいと思います。

歴史文化ゾーンを巡る

平成27年度 洗心庵写真コンテスト 作品募集中！

詳細は財団ホームページをご覧ください。

【テーマ】自由(洗心庵園内で撮影したものであること)

【部門／作品形態】単写真のみ(組写真は不可)

(a) 一般の部 サイズ：四ツ切

(b) 高校生の部 サイズ：A4サイズ以上

【受付締切】平成28年1月31日(日)当日必着



メールマガジン読者募集中！

「やまがた[文化・芸術・生涯学習]総合情報マガジン」(無料)は、やまがたの文化・芸術・生涯学習に関する情報をお届けする毎月2回発行のメールマガジンです。

メールアドレスは財団ホームページより登録できます。

<http://www.gakushubunka.jp/>

編集後記

今号では超高齢社会と生涯学習を取り上げました。また、今年度の山形学講座のテーマは若者。シニアと若者、世代は異なっても、自らの意思で学び、学んだことを社会に還元し、新たな時代をつくる力であることは共通していると感じました。(Y)

次回発行は2月の予定です

編集発行 (公財)山形県生涯学習文化財団 平成27年11月発行

山形県生涯学習センター 〒990-0041 山形市緑町1-2-36 [遊学館]

TEL 023-625-6411 FAX 023-625-6415 E-mail yama@gakushubunka.jp URL <http://www.gakushubunka.jp>

開館時間 9:00~21:00 [夜間利用が無い場合は19:00まで]

休館日 每週月曜日、毎月第3日曜日、年末年始

洗心庵 [山形県生涯学習センター一分館] 〒990-0041 山形市緑町1-4-28

TEL 023-664-2800 FAX 023-664-2816

開館時間 9:00~21:00 [夜間利用が無い場合は19:00まで]

休館日 每週月曜日、毎月第3日曜日、年末年始